

白山手取川ジオパーク 世界ジオパーク推薦審査（日本ジオパーク再認定審査） 現地審査報告書（公開版）

【日程】 2015 年（平成 27 年）8 月 10 日～8 月 12 日

【現地審査員】

中田 節也（日本ジオパーク委員会）

平田 大二（日本ジオパーク委員会）

竹之内 耕（糸魚川ジオパーク）

【主な参加者（所属）】

山田憲昭（白山手取川ジオパーク協議会会長・白山市長）・登 敏明（白山手取川漁業協同組合代表理事組合長）・高橋 至（国土交通省金沢河川国道事務所流域対策課長）・辻内 昭（国土交通省金沢河川国道事務所白峰砂防出張所長）・佐成孝夫（国土交通省金沢河川国道事務所尾口砂防出張所長）・中堀康弘（気象庁金沢地方気象台火山防災官）・今井敏之（気象庁金沢地方気象台防災管理官）・松木崇司（環境省白山自然保護官事務所自然保護官）・良澤和俊（石川県観光戦略推進部観光振興課長）田村功司（石川県石川土木総合事務所技術次長）・曾宇谷憲一（石川県石川土木総合事務所建設課道路建設係長）・青木賢人（金沢大学人間社会研究域人間科学系准教授）・長谷川卓（金沢大学理工研究域自然システム学系教授）・平松良浩（金沢大学理工研究域自然システム学系教授）・渡辺綱男（国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長）・飯田義彦（国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットリサーチアソシエイト）・梶 典雅（石川県白山自然保護センター所長）・東野外志男（石川県白山自然保護センター）・高道栄紘（白山市立中奥公民館長）・重田勝宣（白山市観光ボランティアガイド協会会長）・西川義正（白山市観光ボランティアガイド協会副会長）・金丸和弘（白山市観光ボランティアガイド協会）・磯部雄三（白山市観光ボランティアガイド協会）・織田 毅（白山市観光ボランティアガイド協会）・古田文治（一社、白山市観光連盟専務理事）・永井隆一（一財、白山観光協会専務理事）・米林 歩（白山市国際交流協会事務局長・白山市観光文化部観光課長兼国際交流室長）・佐戸慎一（特非、日本ジオパークネットワーク事務局員・白山市東京事務所長）・餅田修一（ジオパーク学習支援員・白山市立湊公民館長）・広瀬 修（ジオパーク学習支援員）・永井雅美（永井旅館）・山下和樹（市ノ瀬ビジターセンター）・山口幸一（白山砂防科学館・NPO 法人白峰まちづくり協議会）・永井 香（白山苑）・小田吉一（白峰区長）・山田浩太郎（ジグ・グラヴィティしらみね大学）・山ロー男（石川県立白山ろく民俗資料館館長）・加藤芳枝（石川県立白山ろく民俗資料館）・大塚健斗（白山市白峰化石調査センター化石調査員）・奥村晴美（獅子吼荘）・大屋潤一（大屋醤油）・武 外喜男

(武久商店)・紺清美千子(パーク獅子吼・スカイ獅子吼)・荒木忠嗣(荒忠商店)・藤木克彦(美川自然人クラブ理事長・株式会社富士トラベル石川)・白尾正敏(沢のや)・山下法宏(白山市立千代女の里俳句館学芸員)・瀬東千恵子(白山市俳句協会会長)・山口隆(白山市観光文化部長)・中田 悟(白山市観光文化部ジオパーク推進室長)・今川 浩(白山市教育委員会白山ろく分室教育課長補佐兼観光文化部ジオパーク推進室長補佐)・廣川清美(白山市観光文化部ジオパーク推進室専門員)・高野和也(白山市観光文化部ジオパーク推進室専門員)・大西龍一(白山市観光文化部ジオパーク推進室主事)・小阪 大(白山市教育委員会文化財保護課主幹兼観光文化部ジオパーク推進室主幹)・日比野剛(白山市観光文化部ジオパーク推進室主査)・中村真介(白山手取川ジオパーク推進協議会専門員)

見学地点

市ノ瀬ビジターセンター、中飯場、百万貫の岩・白山砂防科学館・白峰の街並み・白山ろく民俗資料館・桑島化石壁、白山恐竜パーク白峰、濁澄橋、手取峡谷、道の駅「しらやまさん」、白山比咩神社、鶴来の街並み、パーク獅子吼とスカイ獅子吼、手取川七ヶ用水、霞堤、美川港と四十物通り、美川の伏流水群、はりんこ増殖池、美川の街並み、松任駅前と千代女の里俳句館

現地審査のまとめ

1) ジオサイトと保全

「水の旅・石の旅」について、源流から河口までを含む長さ72kmの手取川において浸食・運搬・堆積を一連の系としてそれぞれコンパクトに理解できる。それらは白山山地の激しい隆起と浸食が同時に進行している変動が背景となり、さらに、低緯度における多雪地域の雪の存在が浸食・運搬・堆積の現象をさらに豊かなものになっている。このような地形地質・気象現象の組み合わせは世界的にユニークなものとされる。もう一つの世界的価値として、手取層群の脊椎動物化石がある。恐竜以外の爬虫類・両生類・鳥類・哺乳類・魚類・貝類・昆虫類など比較的小型の動物化石が詳細に研究されて、新属新種の記載や中生代の進化を書き換えた発見がある。また、手取川流域の手取層群の植物化石は、かつて、日本の化石から地質時代を推定した最初の論文となっている。

ジオパークエリアの上流地域が、ユネスコエコパークに認定されている。ジオパークが含む白山国立公園は、特別保護地区と特別地域であり、開発行為の規制が強い。市民団体が、石川県天然記念物・石川県絶滅危惧種Ⅰ類に指定されているトミヨの増殖池を管理し、湧水環境の保全に取り組んでいる。白峰地区では、郵便局との連携による地学遺産の日常的な監視体制がある。

一方で、激しい隆起と浸食が同時に進行している変動が世界的に特異であり、国際的な価値があることを証明する学術論文(国際誌)等がないことや、なぜ激しい隆起と浸食が同時にここで進行しているのか、中部日本に共通の地球科学的な背景についてのストーリー

一展開が不足している。また、「水の旅・石の旅」のごく表層の現象ともう一つの世界的価値である手取層群の化石群との関連性が明確に示されていない。さらに、ジオパークの名前にもなっている白山火山や高山植物群落と「水の旅・石の旅」との関連性が明らかでない。美川地区において、湧水量の減少や枯渇問題がある。水の旅の終着様式の一つであり、伝統的な産業を育んできた湧水が消滅しないようモニタリングや原因調査、利害関係者を交えた検討組織をつくっていくことが必要である。

2) 教育・研究活動

金沢大学を中心とした研究者が、ジオパークにおける資源の科学的価値を高めるための支援を積極的に行っている。2011年からジオパーク内の全小学校でジオパーク遠足が継続して実施されており、ジオパーク学習支援員をつくって小中学校のジオパーク学習支援を行っている。また、教員に対するジオパーク研修を行っている。

2) 管理組織・運営体制

エコパーク事務局とジオパーク事務局を白山市が担っているため、ジオパークとエコパーク相互の調整が図られ、それぞれが円滑に運営できる体制がある。また、それを支える専門員が、地学1名・地理1名・考古1名の計3名が配置されている。

しかし、関連施設にはジオパークロゴやエリアの表示やジオパーク情報の積極的な提供がなく、来訪者に対しジオパークを訪れているという意識をもたせることが難しい状況にある。環境省・国交省・石川県・白山市などとジオパーク情報の積極的な提示方法についての早急な協議が求められる。ジオパーク協議会を、承認を主な目的とする組織から日常課題に即応できる実質的な組織へ変えていくことが求められる。たとえば、構成団体は、連合組織の代表からなっているが、民間グループの代表も参加できるような改善が必要である。

3) 地域の持続可能な発展とジオツーリズム

大地の特徴を活用した焼畑農業・農業用水・発酵産業・湧水関連事業などがあり、実際に、ガイドによって語られるストーリーは暮らしと大地の関係をわかりやすく説明している。また、ジオパーク活動への地域住民の参加が認められる。特に、獅子吼高原からの手取川の蛇行と日本海に広がる扇状地の眺望や、断層崖を利用したパラグライダーは、多くの来訪者にこのジオパークの魅力を訴える優れた素材となっている。石川県による「寄り道パーキング事業」によって、百万貫の岩や手取峡谷などのジオサイトに駐車場・展望台・解説板などが整備されている。「水の旅案内人」が養成講座によって200人以上登録され、一般市民や観光施設、宿泊施設からジオパーク情報を発信する取り組みが行われている。とくに醤油・麴・日本酒・糠漬けなどの豊富な湧水を利用した伝統的な発酵産業が数多くあり、大地と暮らしを結びつけた魅力的なジオツアーを提案できる素地がある。加賀の千代女に代表される俳句と活発な市民の俳句活動がジオパークに活用されはじめている。

しかし、ボランティアガイドは存在するが、認定制度がなく、有料にすべきかどうか議論の途中である。ジオパーク解説板や道路に沿う誘導看板は整備されつつあるものの、

現状では、来訪者がどこへ行けば何が見られるのか迷う可能性が高い。白山手取川ジオパークのメイン拠点を整備し、ジオサイトマップや詳細情報の入手、ジオサイトへの道案内、ジオツアーの相談などの窓口となる機能を持たせることが必要である。ジオパーク経営に参加しだした地域住民には、もっとジオパークを意識して地域起こしや伝統的な産業を育てていこうとする気持ちがほしい。

5) 国際対応

新設のジオサイト解説板はジオパークエリアとテーマの中でどう位置づけられているのか示す工夫がされており、まだ小さい表記ながら英語対応もなされている。今後、解説板だけでなく、関連施設の情報提供やガイドなどの国際対応が求められる。

6) 防災・安全

地すべり・土石流・洪水などの災害は、河川による土砂移動が大きなテーマの一つであるので、大地のストーリーの中で学ぶことができ、白山砂防科学館という学習拠点がある。一方、白山火山のハザードマップが作成中であることから、白山登山の情報拠点である市ノ瀬ビジターセンターには、火山情報を提供するコーナーがない。今後、関連機関と連携して、登山者やジオパーク来訪者、地域住民への火山情報や避難方法などの提供が求められる。

7) 結論

以上のように、ジオパーク素材については高品質のものが多くあるが、その論証、それらをツーリズムに結び付ける過程でいくつかの問題を残している。前回の世界推薦審査以降、運営項目についての改善は認められるものの、上述したように、日本ジオパークとしての課題も残しており、加えて、GGN申請に向けて取り組む課題も少なくないと判断される。日本ジオパークとして再認定するが、世界ジオパーク国内推薦審査については見送りとする。日本ジオパークとしてのさらなる改善を求めるとともに、その先にある世界ジオパークへ向けた取り組みの強化が望まれる。ジオパークとエコパークが相補的・相乗的關係をもって共存できるエリアであることを世界に示しつつ、強固な持続可能な地域社会になっていくことを期待したい。

以上